

## 韓国の冬の楽しみ方 ～カンウォンド（江原道）編

ここ韓国は、シベリアからの冷気で冬の最低気温がマイナス10度を下回る日が多く、風が吹けば体感温度はマイナス20度になることもあります。なので、週末は一步も外に出ず、温かいオンドルの部屋でのんびり過ごしがちですが、時には極寒の中で思いきり体を動かしてみるのも悪くありません。今回は韓国のウィンターレジャー事情についてご紹介します。

ソウルの北東に位置するカンウォンド（江原道）という地域は、大自然を満喫できるリゾート地として有名です。2018年の冬に開催されたピョンチャン（平昌）オリンピックもこの地にあり、皆さんの記憶にも新しいことでしょう。ピョンチャンよりもソウル寄りのホンチョン（洪川）にあるビバルディパークという複合リゾート施設内のスキー場は、アクセスの良さと、初級者から上級者まで楽しめる幅広いスロープで有名です。スロープは12面、総面積1,322,021㎡で、レベルに合わせて11のコースに分かれ、リフトとゴンドラを合わせて10機用意されています。スキー場の目の前にはコンドミニアムがあり、宿泊客も多いです。また、今はコロナ禍で閉鎖されていますが、一年中楽しめる大型プールとサウナもあります。

ソウルからスキー場まで車を走らせること1時間半。目の前には白銀の世界が広がり

…と言いたいところですが、この辺りは意外にも降雪量が少ないため、スキー場までの道路には全く雪がなく、スロープのみ人工降雪機によって雪を降らせています。それでもブーツに履き替えて一歩歩けば、パウダースノーに心は踊ります。韓国のスキーシーズンは、大体12月初旬から2月下旬までです。このスキー場は朝8時半に開場し、ナイター設備のおかげで明け方3時まで楽しむことができます。若者やファミリー層は午後の部やナイターを楽しむようです。私のおすすめは、早朝にソウルを出発してオープンと同時に入場し、途中で休憩を挟みながら4時間滑ってランチをとり、早めに家路に向かうコースです。なぜなら午前中は人もそれほど多くなく、リフトもほぼ待たずに乗ることができ、また、圧雪したてのスロープを気分良く滑ることができるからです。帰りも車の渋滞に巻





き込まれず、疲れを次の日に残すこともありません。通常料金は午前のリフト券とスキー板などのレンタル代で1万円程ですが、各種クレジットカードの割引を利用すれば、3、4割引になります。

また、このスキー場は、首都圏からスキー場までを往復するシャトルバスが充実していることでも人気があります。路線は17路線あり、約50箇所のバス停から乗車することができます。しかも無料です。前日までにネット予約すれば、誰でも簡単に利用ことができ、帰りも午後便と夕方便があるので、大変便利です。日本に比べてスキー場の数が少なく、規模も小さいですが、スキー場までのアクセスが良いので、シーズン中は気軽に毎週でも楽しめるという韓国ならではの利点があります。

カンウォンドは国際交流にも積極的であり、毎年ヨンピョン（龍平）のリゾート地にあるスキー場では、国際スキー大会（Yong-Pyong International Ski Festival）というアマチュアの大会が開催されます。この大会は駐韓大使館の職員やその家族、韓国在住の外国人や旅行者がエントリーでき、スウェーデンをはじめフランス、ドイツ、スイス、アメリカ、カナダ、そして日本など12か国が参加

しています。1983年から続いている大会ですが、去年はコロナの影響で中止となりました。今年は開催される予定であり、海外渡航が制限されて母国に帰れない方に少しでも楽しんでもらえればと思います。

他にも、カンウォンドのチョルウォン（鉄原）を流れるハンタンガン（漢灘江）と呼ばれる川は、夏は韓国で最も激しいラフティングが楽しめることで有名ですが、今の季節は約4キロの氷上トラッキングを楽しむことができます。

ここは韓国ドラマのロケ地にもよく使われるので、日本の皆さんもテレビで見たことがあるかもしれません。風光明媚な氷の世界を眺めながらのトラッキングは、他では味わえない体験でしょう。



## 筆者紹介



### 柳鍾宇（ユ ジョンウ）

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は（株）LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。

前職の特許事務所では、最初は（株）サムスンの特許明細書作成／中間処理／外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。